

【資料集】 マスコミに良く出るカタカナ語

【アサイン】 割り当てる、任命する、の意味。アサイメントは宿題のこと

「あの案件にアサインされたので俺はもうダメだ」

【アジェンダ】 計画、予定表のこと。議事日程や協議事項を指すこともある。

「会議は終了時間を設定し、アジェンダを共有しておく、時短になります」

【アセット】 資産、財産のこと。ビジネス上の強み、の意味合いでも用いられる。

アセットマネジメントとは、資産管理を実際の所有者・投資家に代行して行う業務の事。

【アテンド】 介添・人の世話や接待をすること

「叔母にアテンドを頼んだ」

【アライアンス】 提携先のこと。同盟。いくつかの企業が経済的なメリットを享受するため、お互いに緩やかな協力体制を構築すること。スターアライアンス

【アンティパスト】 前菜の意味

【イノベーション】 社会に大きな変化をもたらすような技術や仕組みの革新のこと。創造性に重点が置かれることが多い。※「技術革新」「事業革新」

【インバウンド】 内向き（インバウンド）の営業活動（マーケティング）。つまり、企業側

が顧客からの問い合わせを受け付けるビジネスモデルのこと。訪日外国人旅行者

「インバウンドマーケティングを実践することで、費用対効果の高い広告を打つことが可能になります」

【エスカレーション】 上位者に報告すること。

「またジャイアンに殴られた。ドラえもんのエスカレしよう」

【エビデンス】 証拠、言質のこと。

「仕様変更を受け付けるときにはエビデンスを残すようにしてください」

【OEM / オーイーエム】 「相手先（委託者）ブランド名製造」。製品の仕様や設計をクライアントが決定し、クライアントのブランド名で製造すること。

【オーセンティック】 本物・信頼できる様 「オーセンティック・バーでカクテルを飲む」

【オマージュ】敬意・尊敬・賛辞 「黒沢監督へのオマージュが随所にみられる」

【オムニバス】複数の個別の作品を一つにまとめて構成されたもの。

「オムニバス形式の映画を見る」

【オルタナティブ】代替案、二者択一のこと。

「結局、私はあの子のオルタナティブだったんでしょう？」

【オンスケ】予定どおり進行しているさま。

「前倒しで進めたかったけど、オンスケすら無理っばい」

【オーソライズ】公認、正当と認めること。後述する「コンセンサスを得ている」に近く、発言が個人の見解に拠らないことを確認するときに用いられる。

「その発言は上司までオーソライズされていますか？」

【キッチュ】芸術気取りのまがいもの。俗悪なもの。

【ギミック】あつと驚く仕掛け 「ギミックにこだわった広告を作成した」

【キュレーション (curation)】、情報を選んで集めて整理すること。あるいは収集した情報を特定のテーマに沿って編集し、そこに新たな意味や価値を付与する作業を意味する。もともとは美術館や博物館で企画展を組む専門職のキュレーター (curator) に由来する言葉

【クロージング】クライアントに購入や契約を決断させること。

「そろそろ彼氏にクロージングかけておきなよ」

【コアコンピタンス】競合他社を圧倒的に上回るレベルの能力、あるいは競合他社に真似できない核となる能力のこと。

「弊社のコアコンピタンスは毎週ストックされる週刊少年ジャンプと、みんなで使える大きなシステムキッチンだ」

【コモディティ】商品の意味。所定の商品カテゴリにおいて企業ごとの機能、品質などの違いが不明瞭化したり、あるいは均質化すること。

「叫ばれる女子大生のコモディティ化について議論しよう」

【コスト・リダクション】費用削減のこと。

「食費をコストリダクションするためにもやししか食べてない」

【コンセンサス】関係者の同意のこと。根回しや下相談で前もって固めておくことも。

「プロジェクトのゴールを明確にしてコンセンサスを得るだけの簡単なお仕事」

【コンバージョン】ウェブサイト上で獲得できる最終的な成果のこと。会員登録や資料請求、商品購入など、ユーザが企業の望む行動をとることを指す。

「どれだけサイトデザインが美しくても、コンバージョンしなければ意味がない」

【コンプライアンス】法令遵守の意味。社会的規範や企業倫理を守ることもコンプライアンスに含まれるとする論もある。

「これってコンプライアンス的にアウトだろ」

【コンペティター】競合相手、同じマーケットで同じ製品やサービスを販売している業者のこと。

【サマリー】概要、要約の意味。長い文章や大規模なデータなどを集計したり要約した資料を指す場合もある。

「この議事録、サマっというて」

【シナジー】相乗効果のこと。シナジーを目的として事業の多様化、多角化が実施される。

「お互いのシナジーを考えるなら、群馬と栃木は手を結び茨城を討つべきだ」

【スキーム】枠組みのある計画、あるいは、計画のある枠組みのこと。具体的には、企業の事業計画のことを事業スキーム、ビジネススキームと呼ぶ。

「M&Aでは会計、財務、税務面でスキームを立てる必要がある」

【スコープ】プロジェクトやプログラムにおいて、活動や動作の対象となる範囲、領域のこと。

「残念ながらあの男性は生理的にスコープ外です」

【ステークホルダー】株主や債権者・取引先・顧客など、企業の利害関係者のこと。

【ストレージ】パソコンのデータを長期間保管しておくための補助記憶装置のこと。主なストレージにハードディスクやDVD、CDなどがあげられる。

【セグメント】市場で共通のニーズを持ち、購買行動が似通った顧客層のこと。あるいは、その顧客層を割り出す調査のこと。

「Facebookによるセグメントの結果、出会い系の広告ばかりがリスティングされる」

【ソリューション】業務上の課題を解決するための情報システム

【ダイバーシティー】 1 多様性。相違点。2 企業で、人種・国籍・性・年齢を問わずに人材を活用すること。

【タスク】課せられた仕事、職務のこと。

「翌週のタスクを書き出していたら土日が終わった」

【デファクト・スタンダード】市場における競争で広く採用された結果として、事実上標準化した基準を指す。対義語はグローバルスタンダード。

「国会議員の野次は、デファクトスタンダードの一例である」

【デフォルト】本来は債務不履行、の意味。現在は「基本的、標準的」の意味で多用されているが、英語にそのような用法はない。

「弊社代表は、遅刻がデフォです」

【ドライブ】前進する、追いかけるの意味。（よくない状況から）頑張れ、とはっぱをかける際にも用いられる。

「キミ、今月の目標未達なんだから、もっとドライブかけないと」

【トリアージ】大事故・災害などで同時に多数の患者が出た時に、手当ての緊急度に従って優先順をつけること。

【トレード・オフ】何かを達成するために別の何かを犠牲にしなければならない関係のこと。いわゆる「あちら立てれば、こちらが立たぬ」に相当する。例：在庫管理にはトレードオフがつきまとう。製品の在庫を減らすと顧客の需要に答えられず、販売機会を逃す。

【ドレスコード】「服装規定」のこと。社会生活の中でさまざまな機会と場所、またはパーティや行事、催し物などの場面でそこに相応しい服装をすること。

【ナレッジ】knowledge。組織にとって有益な知識・事例など、付加価値のある情報を指す。

「暗黙知を形式知に転換してナレッジを共有化し、企業の競争優位性を確保する」

【ノーティス】お知らせのこと。

「ショートノーティスとなり恐縮ですが、好きな人ができました。別れましょう」

【バイアス】偏り、偏見、傾向、斜め

「認知バイアスについて調べる。」

【バジェット】予算（案）のこと。または、特定の用途のための経費のこと。

「賞与は管理者のバジェットで自由裁量とのことですので、何卒よろしく」

【バズ・マーケティング】人から人への口コミマーケティングを指す。

【バッファ】緩衝のこと。物体に限らず時間、データ、人について、余裕を持たせている部分を指す。

「スケジュールがタイトだから、多少はバッファを持たせておいて」

【パラレル】並列、同時進行、の意味。

「どちらもプライオリティ高めの案件だから、パラで進めて」

【ハレーション】周囲に影響を与えること。主に悪い影響を指す。

「先方のマーケ・ブランディング部門とハレーションしないよう、穏便に頼む」

【フィジビリティ・スタディ】事業計画の実現性を評価するために前もって行なわれる調査・研究を指す。実験的にやってみること、という意味合いで使用される場合もある。

【フィックス】仕事の内容や行動を最終決定すること。

「仕様をフィックスするためにお打ち合わせのお時間を頂けますか？」

【フェーズ】変化、発展する物事の段階、局面のこと。

「iPS細胞開発は、次のフェーズに移行した」

【プライオリティ】優先度、優先順位のこと。

「本気でリカバリーしたい案件だから、プライオリティ高めで」

【ベーシック・インカム】最低生活保障制度と訳される。

働かなくても一定のお金を国が国民に定期的に支給する制度。

【ベストプラクティス】過去最高の事例、あるいは最も効果・効率的な実践の方法のこと。

「競合相手のベストプラクティスを参考にして」

【ペンディング】保留、の意味。未解決の状態にとどまることを指す場合もある。

「きのこ・たけのこ論争は一旦ペンディングで」

【ボトルネック】瓶の首の形状から、生産活動において発展の妨げとなる要素を指す。さらに、事業を拡大する上で最も確保が難しいリソースを意味することもある。

「フロントエンドエンジニアの採用が、事業を拡大する上でのボトルネックだ」

【マイルストーン】道しるべの意。物事の進捗を管理するために途中で設ける節目をいう。日付のほか、イベントや行事をマイルストーンとすることもある。

「次のマイルストーンまで、進捗状況はきちんと把握しておいてください」

【マチネー】演劇・音楽会などの昼間の興行。→ソワレ

【メンター】企業において、新入社員などの精神的なサポートをするために、専任者をもつうける制度のことで、日本における OJT 制度が元になっている。

【リスクヘッジ】リスクを回避したり、リスクを軽減する工夫をすること。ちなみにヘッジだけでも同じ意味を指す。「遅刻のリスクヘッジとして、社泊は有効である」

【リスケジュール】スケジュールの変更、納期の延長、を意味する。

「会議の時間が変更になったから、リスケしておいてください」

【リテラシー】情報を自分の目的により正しく取捨選択できる能力（情報リテラシー）のこと。あるいは、ビジネスの基本知識や業務知識のこと。

「Chrome の利用率が高いことから、弊社ブログ読者層のリテラシーは高めだといえる」

【リソース】いわゆるヒト・モノ・カネと称される、企業経営や組織の運営に必要なすべての経営資源のこと。「足りないリソースは気持ちで補う日本人的精神論」